

NMO OfficeLetter

東高瀬川ビジネスパーク構想立ち上がる

京都市伏見区の高瀬川東側エリアに半導体やIT、ライフサイエンス関連企業を集積する構想を推進するプロジェクトがキックオフした。産官学でこの構想を進める団体が立ち上がり、イベントの開催をスタートにして、中堅企業の誘致や地域と一体となった活動を目指す。

〈解説〉構想ではこのエリアに半導体、エレクトロニクス、バイオ、メディカル、環境関連などの企業や研究機関を誘致し、地域としてのブランド価値を高める。受け皿の団体として「東高瀬川ビジネスコミュニティ」。地域内に本社のある上場企業の会長をトップに、関連団体の役員が参画している。キックオフのイベント



では、域内企業のトップが講演し、人材のグローバル化や研究開発の実態を紹介した。今後は年間数回の会合を開催し、会員企業の勉強会や企業誘致に向けた活動を行う。そもそもこの域内は、「らくなん進都」の中央部に位置する。「らくなん進都」は、京都駅の南の十条通から南は宇治川までの6km、東は東高瀬川、西は国道1号線に囲まれた、油小路通沿道を中心とした地域で、50km圏内には大阪湾ベイエリアの大阪市や神戸市、関西文化学術研究都市及び周辺都市の大津市、奈良市がある。南北に国道1号線と油小路通が通り、名神高速道路・京都南ICや新十条通、京滋バイパスへ接続している。将来的に名神高速道路と油小路線を結ぶ「京都南ジャンクション(JCT)(仮称)」を新設する計画も出ており、注目のエリアだ。らくなん進都では、良好なまちづくりが行われ、企業立地を促進する様々な取組により、先進的な活動を続ける最先端の技術を持った企業が沢山立地しています。都市計画規制等も京都市内では比較的緩和され、様々な優遇制度が設けられている。「らくなん進都」に

企業立地すると、各種優遇制度やバックアップ制度が活用できる。(1)高度集積地区の優遇:容積率UPや税制支援。(2)研究開発へのバックアップ:大学との共同研究等の研究開発をバックアップ。(3)企業立地促進制度:製造業等の立地企業への補助制度。(4)企業立地マッチング制度:土地情報提供サービスで製造業等の企業立地をお手伝い。(5)産業支援制度(認定制度等):優秀な企業の認定制度で企業ブランディングの支援。この活動を進めるにあたり、「らくなん進都整備推進協議会」という組織があり、「パートナーシップによる創造のまちづくり」を推進するために、住民や企業をはじめ、経済団体や行政機関などが、らくなん進都のあり方に関する意見交換を通じて地域の将来像の共有化を図るとともに、その実現に向けた課題解決に取り組む、いわばらくなん進都のまちづくりの核として、平成12年に設立。現在56の団体、機関等により構成されているが、土地の確保などの課題があり、あまり大きな進展はみられない。今回同じような趣旨の団体が屋上屋を重ねることがないように、円滑な推進活動の前進を期待したい。

東高瀬川ビジネスコミュニティ
キックオフ・シンポジウム
～京都から挑むグローバルビジネスの風潮～

2024
3.18(月)
15:00～17:00
(14:30～受付開始)

会場100名
参加費無料

主催: 東高瀬川ビジネスコミュニティ(代表: 成岡マネジメントオフィス)